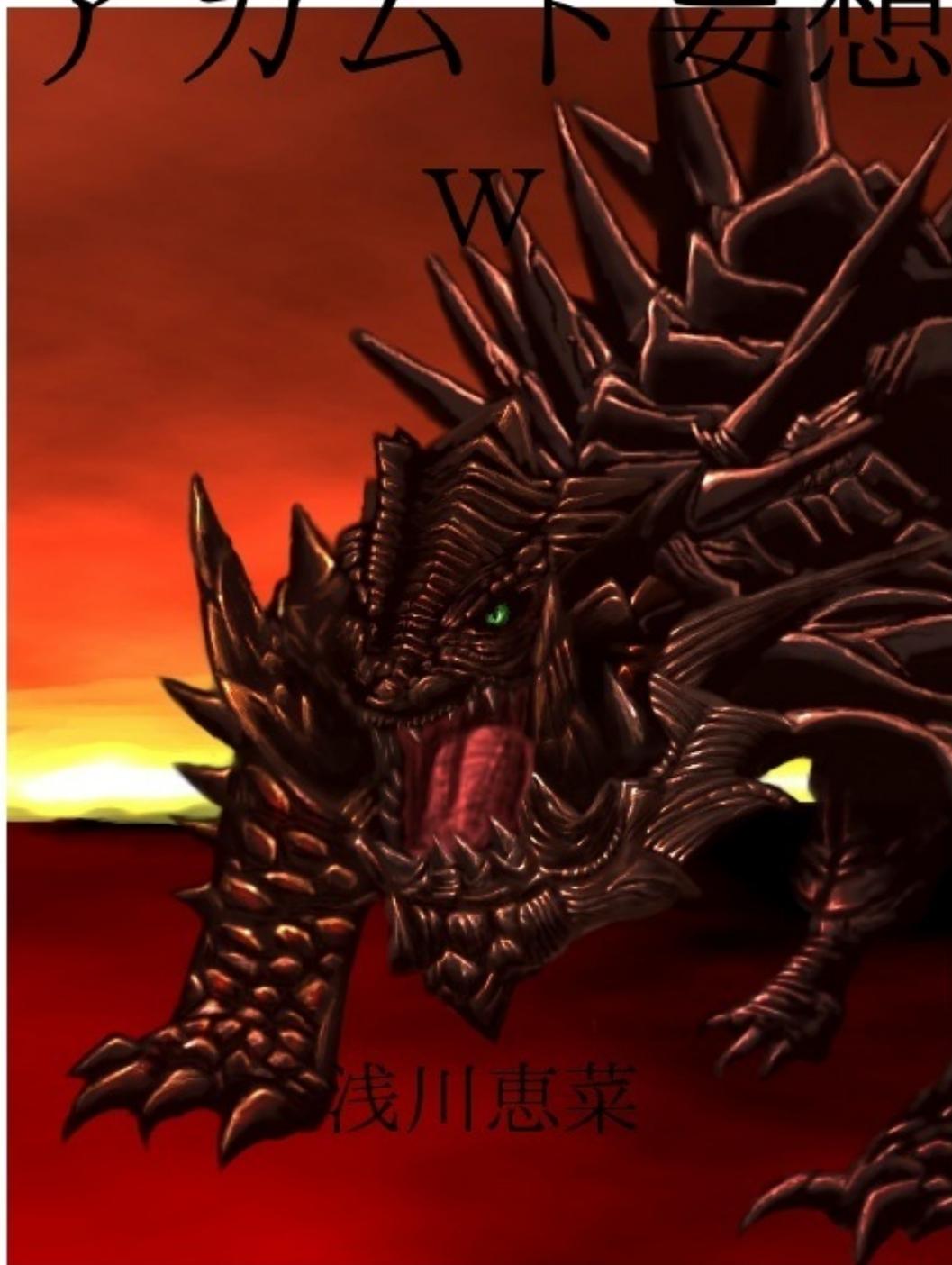


アカムト妄想

W



浅川恵菜

1話

あたしはお供を連れて採取ツアーに行きました。んでえ、龍の巣と思われるところで採取、採取。 あいや！龍の卵発見！・・・なんか、紅く輝いてる！！ わお、インテリア！



たしか・・・。龍の卵って、ギルドに精算アイテムとして、捕られちゃうはず・・・。
困ったなり・・・。考える事、数分。

そだ！ アイルーが見つけた、って事にすれば検閲、通過できる！
てなわけで、アイルー二匹に大事に持たせて、検閲通過！

で、自宅に持ってきたんですが、何処に保管する？

考えた挙句、プーギーのお洋服をはぎとって、羊毛のクッションの中に紅い卵、鎮座。あーきれい！立派なインテリア
☆

ところが・・・1週間後、パリパリと異音が・・・。
な、何？ ほえっ！

なんと、アカムトのべびが！！！！

敵にすると、ちょームカつくけど、プーギーよか、2回りはちっちゃい！かわゆい！
・・・しかし、ギルドに知られると、懲罰間違いなし。んーでもお・・・。

とりあえず、ムトちゃんって名前をつけて、生肉をあたえつつ育成。おかげで、生肉入手だけの為に、ガーグァ何匹倒したか・・・。

しかーし、立派に小学生程度に成長したムトちゃんは、あたしと、アイルー2匹を乗っけて狩りに行けるようになりました。

何が凄かって。ティガレックス。

あ、いる？と思うと、でっかいアンヨで踏み踏み。それでティガさん絶命。あーもー素材剥ぎ取り放題☆

しかーし、ハンターさんには、あたしのカワイイ、ムトちゃんを狩ろうとする輩もいて。
その度に、ナウシカのように、十字ポーズで
「やめてー！ このこはイイコだから！」ってw

ムトちゃんがいれば、ジェンモーランさんも、一撃！！

強いぞ！ ムトちゃん！！！！

2話

ムトちゃん、初めは一緒に暮らしてたの。・・・でもお、プーギーを見る目がだんだんヤバくなってきて・・・。なので、今は農場にある坑道の深い所で、こっそり飼ってるの。あそこなら、お水も飲み放題だしね♪



ある日、いつもお世話してくれてるアイルーがやってきて、あたしの目をじっと見つめた。

「どうしたの？」「・・・ムトちゃんが、話したいことがあるって・・・。」

あわてて農場へ。

「む、ムトちゃん、お話って？」

「まま・・・ボク、ままとさよならするんだ。」（えー通訳はアイルーです）

「さよならって、どうゆうこと!？」ムトちゃん、涙をぼろりと落とした。

「あのね、ボク、ガーグアのお肉だけじゃ足りなくなってきた事、知ってるよね？」

「まあそうだけど・・・でも、まま、がんばるよ??」

「いいんだ。もう、ポボくらい食べないとお腹が空いちゃって、そのうち、アイルーさんたちも食べちゃうかもしれない。」

「そんなこと、云わないで!!」

「ね、まま。こないだ教官さんがきて、演習用になってくれるなら、闘技場に引きとってもいいって。ちゃんと、ままにもお金払うって。」

「ムトちゃん・・・!」ひし!かちかちの肌にしがみつく。

「でもね、まま。ボク、1つだけお願いしたい事があるの。」「なに？」あたし鼻をすすりながら応える。

「どうしても、倒しておきたいヤツがいるんだ。」

「だれよ?」「ウカムルパス。」ムトちゃんの目が怪しく輝く。

「う、うかむって、雪山にいるやつ? 聞いたことあるけど、まま、見たことないよ。」

「あいつが里に降りてきたら、大変なことになるんだよ。それに、ボクのライバルなんだ」ライバルって・・・。だって、山みたいなモンスターだってG級ハンターさんが行ってたし・・・。

「あした、日の出と供に雪山いこう。攻撃は全部ボクがするから、ままはサポートお願いね?」

「うん、毒武器持って、罾と閃光玉と爆弾いっぱい持って行く!」

雪山、最上マップ。吹雪が強すぎて、なんにも、見えない。

「・・・いるよ・・・。」ムトちゃん、そろーりそろりと歩き出す。山、だと思ってた塊がいきなりふわり、と動く! ホントに山だ!

「ええ!!」しーんじらんない! こーんなにおっきいの!?

ムトちゃん、咆哮を上げるとそのまま体当たり！ どっしーん！！ あたしもアイルーも跳ね上がったちゃう！
ムトちゃんががんばってるんだ。あたしも突進。地道に毒武器でちくちくつつく。
後ろからアイルーが叫んでるのがきこえた。

「旦那様！ 閃光玉にやっ！」 ええ？ あーなんとか退避して、よく確認もせずに投げた。
「ぎゃおーん！」 ありゃ？

なーんと、ウカムだけじゃなくって、ムトちゃんも目がくらんでる。
あちゃー、タイミング悪し。仕方がないから、ムトちゃんひっぱたいて目を覚まさせて、一時退却。

「もー、ママ！ なんだよお！ もっとちゃんと見て！」 ごめんごめん。
回復薬グレートをクリーム状にしたヤツを傷口に塗りこみながら謝る。

しーかーし、あたしはヘタレハンターでし（赤面）。結局、アイテム使い切って、里まで逃げ帰って来ました。

「もー、ママ、さいてー！」 途中でゲットしたポポを食べながら、ムトちゃんが愚痴る。
「ごめん。ママ、もっと、閃光玉、上手く投げられるようになるよ。」
「たのんだよ！ほんとに、もー！」

・・・うふふ。でも、それまでは、ムトちゃんと一緒にいられる。がんばるけどさ、もうちょっとこうしていたいなー。
ね、ムトちゃん☆

最終話

閃光玉を、確実に投げる。むむ！ 苦手なのよう。でも、ムトちゃんが宿敵を倒す為にも、なんとか習熟するしかない。

集会所のお風呂で愚痴ってみたら、

「じゃさ、ディアブロス、狩ろうよ？」ええ、無理一。

「あいつさ、結構拳動が分かりやすいんだよ。オレ大剣か太刀で行くからさ、キミ片手剣で行って、閃光玉修行してみれば？」

「うーん、毒るくらいしかできないけど・・・いいの？」

「ああ。いい素材も手に入るし、尻尾切断とかは任せてよ。角破壊は、爆弾でOKだし。」

もー、それからは、ひやしあめ飲んでディアブロス撃破！3頭位倒したら、

「もう大丈夫だよ。これなら、ナルガでも、9割は閃光玉喰らわせられるよ。」

って！

お風呂でアイルーと踊りながら、ウカム対抗策を考える。もーやるぞっ！！

「ムトちゃん！明日、ウカム倒すなり！」

「まま！ 信じてたよ！」

翌日、日の出と供に村を出発する。目指すはウカム！！

ムトちゃん、咆哮を上げて、どっかんどっかん体当たり。さあて！

「いっくよー！ファンネル！・・・違ったあ！ 閃光玉！」

修行の成果アリ！ 百発百中！！

吹雪で詳細は見えない。でも、ムトちゃんの雄たけびで、戦況は推察できる。

「あんぎゃー！！！！」勝利の咆哮！やったあ！倒したのね！

「ままー」いいの。素材なんて入らない。ムトちゃんが想いを果たせたならそれでいいの。

翌日、教官さんがムトちゃんを引き取りに来た。

悲しいけど、お別れなんかしたくないけど、でも、それはムトちゃんの意味。

「まま。ありがとうね。これ、素材につかってね。」

そうって、うろこを一枚渡してくれた。

あたしは玄関先で、ムトちゃんが見えなくなるまで手を振り続けたの。もう、逢えない。厩舎の位置は絶対に教えてくれないし、演習でムトちゃんと闘うなんて、やだ。

なので、せめてもの思い出に、残してくれたうろこを、加工屋さんに頼んでアクセサリにしてもらったの。



どーんな宝石より、キレイ☆ つけてもなんの効果もないけど、でもムトちゃんが側に居てくれるような感じがして、ずーっと、つけてる。

ムトちゃん。いつまでも、元気でね！